



副学長補佐（学友会担当） 西村 泰光

この度、副学長補佐・学友会担当を拝命致すこととなりました。就任に際し、皆様にご挨拶申し上げます。

学友会担当といいますと、クラブ活動の支援が主たる任務と存じます。自分自身も演劇部の顧問をしており、彼らの活躍について、また学業についても、見守り応援しています。親バカではございますが、学園祭で催される彼らの演劇にはいつも感動を覚え、人間模様があったり、劇中劇があったり、人間ドラマを巧みに演じる彼らの役者魂、それを支える裏方魂に、心から敬意を表します。加えて、演劇部の諸君は特待生となる学生も多く、顧問としては殆どすることはなく、いつも手放しで彼らを応援しています（笑）。

さて、学生生活にとって、クラブ活動とはどうあるべきなのでしょう。タイトなカリキュラムの中で、学生達がクラブ活動を行う意義はどこにあるのでしょうか。言うまでもなく、学生の本分は学業にあり、優れた医師となるために学業を怠ることなく、不断の努力を続けることが学生諸君には求められています。それでも本学はクラブ活動を奨励しています。その意義はどこにあるのか。これは極めて慎重に説明しなければなりません。安易にクラブ活動を奨励することは、学業を後回しにしてクラブ活動に逃げるといふ逃避行動を促す自らへの口実を学生に与えることとなります。クラブ活動はクラブ活動でしか無く、学業とは切り離して考えなければなりません。その中でクラブ活動の果たすべき役割は、教養力を身につける時間と考えるべきだろうと感じます。スポーツ・芸術・文化における幅広い活動は豊かな教養を与え、そこから生まれる深い見識は“考える力”として大いに役立つはずで。学生諸君は、個々の学問を究めることは勿論ですが、遠く大きな目標を目指して日々歩かなければなりません。人と

して医師として、自分はどうあるべきなのか。その歩みは医師としてその生涯を閉じるときまで止めてはいけないのです。繰り返しになりますが、クラブ活動は学業を補うものでもなければ、学業を疎かにする理由には如何なる場合もなりません。しかしながら、医学生が知識と技術を身につけるその前に、社会人として考える力を獲得しなければならないこともまた事実です。医師が対峙するのは病ではなく、病を患った人です。その時に必要とされる自らの見識を鍛える材料として、クラブ活動は大きく役立つことでしょう。また、医療が提供されるときにも、医師が中心となり個々のスタッフと意思疎通を図らなければなりません。どんなときにも、人が人と対峙するとき、求められるのはコミュニケーション力であり、その時には医療技術や知識は何の役にも立ちません。クラブ活動で得た経験は、人の行動の理由や、言葉の意味、相手の真意、それらを考え、理解し、伝えるときに大いに役立つことでしょう。それらが充たされて初めて、医師は自らの知識と技術を大いに発揮することができるのです。そのように、クラブ活動は、それ以上でもそれ以下でもありませんが、医師である前に必要とされる様々な教養を身につけさせてくれる時間なのだと感じます。患者が医師に抱く信頼感は、根拠に基づく論理的な治療説明によってのみ生み出されるのではなく、医師の一言一言から感じる楽しさ、安心感もまた寄与しているのだと思います。本学学生諸君には、医学を究めるのは勿論のこと、人として高い教養と見識を身につけることをもう一つの目標として欲しいし、クラブ活動はそのような目標のための時間だと意識して欲しいと思います。

全学生が世界に誇れる医師となることを応援しています。学生への心からの激励を表しまして、本稿を結ばせて頂きます。みんな、頑張れ！がんばれ！